

京都観世会三月例会

令和5年3月26日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



白鬚〔能〕

吉浪壽晃

盆山〔狂言〕

茂山忠三郎

東北〔能〕

浦田保浩

船橋〔能〕

田茂井廣道

主催 公益社団法人 京都観世会



文化庁

会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

お問合せ・お申込み

☎ 075-771-6114

<http://www.kyoto-kanze.jp>

WEBサイトの公演情報からご予約が出来ます。



本公演は新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿った対策に取り組み開催致します。前売券は2月1日(水)より発売致します。

◆WEBで指定席が購入できます◆

| | | |
|---------------|--------|----------|
| 一般前売指定席券 (1階) | 8,000円 | ※webにて販売 |
| 一般前売自由席券 | 6,000円 | |
| 一般当日券 (自由席) | 6,500円 | |
| 学生券 (2階自由席) | 3,000円 | |

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金です。

京都観世会館案内図



東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

- ◆京都観世会館へは
- JR京都駅から—
- 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約30分)
- 徒歩約3分
- 市バス[86][206]で「東山仁王門」下車 (乗車時間約30分)
- 徒歩約5分
- 地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて東西線に乗り換え「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
- 阪急京都河原町駅から—
- 市バス[31][46][201][203]で「東山仁王門」下車 (乗車時間約15分)
- 徒歩約5分
- 京阪三条駅から—
- 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約7分)
- 徒歩約3分
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
- JR二条駅から—
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
- 山科・醍醐方面から—
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
- 地下鉄東西線「東山駅」から—
- ①番出口から徒歩約5分

京都観世会三月例会

後見・地謡

漁夫河村和晃
天女松井美樹
龍神谷 弘之助
白鬚明神吉浪壽晃

(能)
後見 中村宜成
勅使 福王知登
從者 喜多雅人
末社ノ神 茂山千三郎

(後見) 橋本擴三郎
井上裕久
梅田嘉宏
吉田篤史
浦部幸裕
河村博重

盆山

(狂言)
男 茂山忠三郎
有徳人 山口耕道

(後見) 山本善之

(一時半過)

和泉式部 浦田保浩

(能)
從僧 大坪賢明
兼僧 江崎欽次朗
從僧 松本義昭
門前ノ者 山本善之

(後見) 大江信行
片山九郎右衛門
大江泰正
宮本茂樹
深野貴彦
橋本光史
味方 保親
玄

(仕舞)
屋島 鷺尾世志子
須磨源氏 橋本忠樹

里女樹下千慧
男ノ亡靈 田茂井廣道

(能)
供山伏原 大 陸
三熊野ノ山伏原 大鼓谷口正壽
供山伏岡 小鼓 清水皓祐
里人 山口耕道

(後見) 青木道喜
大江又三郎
河村浩太郎
河村和貴
松野浩行
味方 團
河村晴道
河村和重
林 宗一郎
河村晴久

【お知らせ】

当館ではアルコール消毒液の設置や、多くのお客様が手に触れる箇所には定期的に清掃・消毒を行っております。
。「検温」「マスク着用」「咳エチケット」「手指消毒」の協力をお願い申し上げます。
。「発熱・咳など風邪症状のある場合は、」(来館前に医療機関に)相談ください。
。「字幕解説サービス」専用端末は千円(税込)にて貸出いたします。
今後の状況の変化により、当日券販売の有無や催し物の内容変更または延期となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

解説

白鬚 勅命をうけた臣下が、琵琶湖畔の白鬚神社に参詣すると、釣りに帰る漁翁と若者が会った。漁翁は、むかし釈迦が日本に渡った折、志賀の浦で釣りをした老人に比叡山を弘法修行の清浄地として所望したところ、老人には自分がかつての折の老人が白鬚の神であると言いつつ、自分も白鬚の神であると言いつつ、社壇に入つてゆく。(中入)
やがて末社の神が現れ、めでたく舞を舞う。統して社殿の扉が開いて白鬚明神が出現し、舞樂を奏して勅使を慰め、龍神は龍灯をささげて現れ、山舞の舞を舞う。奇特を示す。

東 東 東
北 北 北
東 東 東
北 北 北

東門院(一条天皇の中宮・彰子)の住まいであった時、彰子が植えた、軒端の梅(です)と教える。また境内の方丈(一丈四方の室、寺の住居部)も和泉式部の方丈で、その当時やがて女は「梅の主」である。隠れて見えなくなつてしまふ。僧は先ほど梅の名を教へてくれた男にこの東北院が部と泉式部のことであることや和泉式部のことを語りつづつ、夜を居て法華経を讀んで通す。その折の老人が白鬚の神であると言いつつ、自分も白鬚の神であると言いつつ、社壇に入つてゆく。(中入)
やがて末社の神が現れ、めでたく舞を舞う。統して社殿の扉が開いて白鬚明神が出現し、舞樂を奏して勅使を慰め、龍神は龍灯をささげて現れ、山舞の舞を舞う。奇特を示す。

船橋 三熊野の山伏が松島・平泉へ下る途中、上野国佐野の里に着くと、その里の男女が現れて、橋の建設の爲の寄付を乞う。二人は「万葉集」の中の一上野(東路)の佐野の橋と、昔の橋の由來を訊ねる。昔の橋は「佐野の橋」として毎夜通つていたが、これに反対した二人が橋板を外してしまふ。ところが二人はこれを知らずに踏み外してしまふ。水中に落ちて死んでしまふ。二人がその二人であることが、回向を頼んで消え失せる。回向を頼んで消え失せる。回向を頼んで消え失せる。回向を頼んで消え失せる。

次回予告

京都観世会四月例会

令和5年4月23日(日) 午前11時開演

(能) 邯鄲 味方 團
(能) 雲雀山 井上 裕久
(能) 阿漕 大江 信行
(狂言) お茶の水 茂山 宗彦

【表紙写真】
味方 玄
金の星渡辺写真場撮影